



(題字 瀧澤 弘 学長)

第446号
(平成14年 2月号)

2月のトピクス

◇ 4日 ロシア・ウラジオストック市のテレビ番組取材班が人文学部を訪問



◇ 25日 平成14年度入学者選抜学力検査（一般選抜（前期日程）及び専門高校・総合学科卒業生選抜）を実施



△検査開始を待つ受験者（教育学部検査場）



△学力検査を終えて本学正門から帰宅する受験者

目 次

関 係 法 令	3
学 内 規 則	
◆ 富山大学放射性同位元素総合実験室規則の一部を改正する規則の制定	3
諸 会 議	4
学 事	
◆ 第3回富山大学大学開放推進懇話会を開催	5
◆ 平成13年度第2回富山大学運営諮問会議を開催	5
◆ 再編・統合③-3・④	6
◆ 平成14年度入学者選抜個別学力検査（一般選抜（前期日程）及び専門高校・総合学科卒業生 選抜）を実施	11
◆ 平成14年度在外研究員派遣者の決定	14
◆ 平成14年度国際研究集会派遣研究員（第I期）の決定	14
◆ 平成14年度公開講座実施一覧	15
人 事 異 動	16
学 内 諸 報	
◆ ロシア連邦極東国立総合大学と学術交流協定を締結	17
◆ 教育学部附属幼稚園及び同附属養護学校において立春の節分の行事を実施	17
◆ ロシア・ウラジオストック市のテレビ番組取材班が人文学部を訪問	18
◆ 第2回極東地域研究センター特別セミナーを開催	18
◆ 平成13年度第2回機器分析センター研究会を開催	18
◆ 平成13年度教育学部附属養護学校教育実践研究会を開催	19
◆ 留学生センター日本語研修コース第5期スピーチ発表会を開催	19
◆ 退官記念最終講義の実施	20
◆ 平成13年度全国公務員レクリエーション共同行事富山地区ボーリング大会で本学が 団体戦で優勝・準優勝及び個人戦で準優勝	21
◆ 海外渡航者	21
主 要 行 事	22

関 係 法 令

(規 則)

- 人事院規則16-0（職員の災害補償）の一部を改正する人事院規則（人事院16-0-31）（平成14. 2. 20官報第3304号）

(省 令)

- 学校給食法施行規則の一部を改正する省令（文部科学2）（平成14. 2. 8官報号外第22号）

(告 示)

- 大学，短期大学，大学の学部，短期大学の学科及び大学の学部の学科の設置，大学の通信教育の開設，大学院，研究科以外の基本組織及び大学院の研究科の設置並びに大学院における通信教育の開設を認可した件（文部科学10）（平成14. 2. 4官報号外第18号）
- 平成14年度において使用される小学校，中学校，高等学校，聾学校及び養護学校の教科書の定価を認可した件（文部科学14）（平成14. 2. 18官報号外第27号）

学 内 規 則

富山大学放射性同位元素総合実験室規則の一部を改正する規則の制定

富山大学放射性同位元素総合実験室規則の改正理由

室長の選出方法の変更及び本学の全学委員会の整理統合に伴い，所要事項を改める。

富山大学放射性同位元素総合実験室規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

平成14年 2 月15日

富山大学長 瀧 澤 弘

富山大学放射性同位元素総合実験室規則の一部を改正する規則

富山大学放射性同位元素総合実験室規則（昭和40年 4 月22日制定）の一部を次のように改正する。

第 2 条第 2 項中「放射性同位元素委員会の指名に基づき」を「第 5 条の運営委員会が推薦し」に改め，同条第 3 項中「放射性同位元素委員会」を「安全管理委員会」に改める。

第 8 条中第 4 号を第 5 号とし，第 1 号から第 3 号までを 1 号ずつ繰り下げ，同条に第 1 号として次の 1 号を加える。

(1) 室長の推薦に関すること。

附 則

この規則は，平成14年 2 月15日から施行する。

**学生生活委員会（2月7日）**

（審議事項）

- (1) 学生団体の書類送付について

富山大学の教育業績評価の確立に関する検討委員会（2月7日）

（審議事項）

- (1) 富山大学の教育業績評価の確立について

自己点検評価委員会（2月8日）

（審議事項）

- (1) 平成12年度に実施された大学評価の評価結果（全学テーマ別評価「教育サービス面における社会貢献」）について
- (2) 平成13年度に着手する大学評価への対応について
- (3) 平成11年度自己点検評価に基づく付託事項（回答）の検証結果について

組織運営体制の整備に関する検討委員会（2月8日）

（審議事項）

- (1) 組織運営体制の整備について

富山大学の教育業績評価の確立に関する検討委員会（2月12日）

（審議事項）

- (1) 富山大学の教育業績評価の確立について

就職委員会（2月14日）

（審議事項）

- (1) 富山大学が行う職業紹介業務に関する個人情報適正管理要項の制定及び富山大学職業紹介業務運営規則の一部改正（案）について

施設整備委員会（2月14日）

（審議事項）

- (1) 富山大学施設利用細則について
- (2) 西田地方団地の有効活用について

富山大学の教育業績評価の確立に関する検討委員会（2月14日）

（審議事項）

- (1) 富山大学の教育業績評価の確立について

部局長会議（2月15日）

（審議事項）

- (1) 教員定員の移動について

評議会（2月15日）

（審議事項）

- (1) 富山大学教員の第10次定員削減実施要項の一部改正について
- (2) 富山大学放射性同位元素総合実験室規則の一部改正について
- (3) 平成12年度着手の大学評価の評価結果（全学テーマ別評価「教育サービス面における社会貢献」）について
- (4) 富山大学の組織運営体制の整備について
- (5) 富山大学学長選考規則等の問題点について
- (6) 富山大学における教員の教育業績の適正な評価方法について
- (7) 名誉教授の称号授与に係る選考基準について

教養教育運営協議会（2月22日）

（審議事項）

- (1) 教養教育副実施機構長の選出について
- (2) 英語資格取得による単位認定について

国際交流委員会（2月22日）

（審議事項）

- (1) 中華人民共和国山東大学との大学間学術交流協定について

組織運営体制の整備に関する検討委員会（2月22日）

（審議事項）

- (1) 組織運営体制の整備について

学

事

第3回富山大学大学開放推進懇話会を開催

2月6日（水）事務局大会議室において、第3回富山大学大学開放推進懇話会が開催されました。

この懇話会は大学開放事業をより円滑に推進するとともに、その実施状況について評価を受けるため、平成11年度から開催されているものです。

今回の懇話会には委員11名のほか、瀧澤学長及び宇井生涯学習教育研究センター長ら14名が出席しました。

瀧澤学長の挨拶に引き続き、宇井センター長が平成13年度の本学の事業報告を行い、その後各委員から大学開放の在り方について貴重な意見・提言がありました。これらの意見・提言は、今後の大学開放事業の推進に活用されることとなります。

また、高度な学習ニーズの高まりを受けて、学生向けの授業をすべて一般に公開する「富山大学オープン・クラス（仮称）」の実施を検討する方針が提案され、委員からは賛成の意見が多数を占めました。

今後、生涯学習教育研究センター運営委員会等での議論を経て検討・準備が進められる予定です。

なお、出席された委員は次の方々です。（50音順）

鮎 久晴（コーセル（株）代表取締役社長）

飯田 宗映（富山県民生涯学習カレッジ学長）

小川 弘（富山市監査委員）

久津 武司（富山県教育委員会生涯学習室長）

高瀬 信正（富山大学公開講座受講者代表）

土井 均（北日本新聞社編集局報道本部長）

布施 実（日本放送協会富山放送局長）

堀内 道子（富山県婦人会副会長）

山口 松蔵（富山県立近代美術館長）

米田 憲三（富山県生涯学習団体協議会会長）

和田 悟（北日本放送報道制作局長）



平成13年度第2回富山大学運営諮問会議を開催

本年度の第2回富山大学運営諮問会議が2月7日（木）に開催され、石坂会長をはじめとして中沖富山県知事ら9人が出席されました。

会議の冒頭で瀧澤学長が「全国の国立大学で再編統合が進む中、県内三大学も近く正式な協議が始まる見通しとなった。教員養成系大学・学部も戸惑いながら、今後のあるべき姿を検討している。皆さんから忌憚のない意見をいただき、大学運営に生かしたい。」と挨拶しました。

その後、本学から、入試合否判定過誤再発防止、学内施設整備状況について報告があり、引き続き、各委員から以下の提言がありました。

- ・富山県は、人づくりを政策の根本においており、教員養成機能を残すよう全力を尽くしてほしい。高短は「金の宝」ぐらいの気持ち。高岡に何らかの形で残してほしい。
- ・県の懇談会に対し、情報提供されたい。県としてできる限りの応援をしたい。
- ・医薬大とのかみ合わない部分が報道されている。論点をはっきりさせ、再編統合の協議を進めてほしい。
- ・薬業界が再編統合に強く反対していた。大きなバリアがある感で、難しい印象を受けている。蠟山学長が短大の利点を強く主張されており、伝統産業や生き立ちを考慮されたい。

- ・富大の志願者が昨年から増加していることは、再発防止に積極的に取り組んだ結果であり、評価できる。担当教員が交代してもチェック体制が継続されるよう要望する。

再編統合の理念、目標を3大学同じ土俵の上で進められるよう努力されたい。

ものづくりでも4年制の必要性がいわれている。高短を全体の再編統合の中で見直す必要があると思う。

- ・教員養成機能を富山に置き、そこで教育に熱意を持った人材を育成してほしい。
- ・トップダウンでなく、大学としての自発的な再編統合であることを望んでいる。

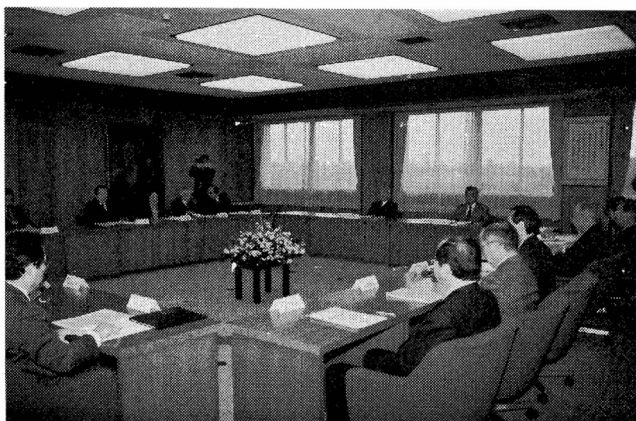
ペースが遅い感じだが、富大はリードすべきで、精力的に取り組んでほしい。

- ・大学の意志決定のプロセスに問題があるのでは。再編統合して大学組織が大きくなると、新大学ではシステムを変えないといけないのでは。
- ・行き詰まった印象、暗礁に乗り上げたイメージがある。明るい展望に近づけられたい。なるべく早く、再編統合の「姿」を見せてほしい。
- ・大学は自分中心の議論をしがち。自己を捨てた議論、目標を置いた中味のある議論で、基本方針を早く決め

てほしい。

なお、出席された委員は次の方々です。(50音順)

- 石坂 誠一 (前富山国際大学長)
- 井上 孝美 (放送大学学園理事長)
- 上野 隆三 (北日本新聞社代表取締役会長)
- 塩井外喜子 (富山県婦人会会長)
- 中尾 哲雄 (富山経済同友会代表幹事)
- 中沖 豊 (富山県知事)
- 福岡 隆 (富山県教育委員会教育長)
- 本多 正道 (前富山県経営者協会会長)
- 山田 圭藏 (北陸経済連合会会長)



再 編 ・ 統 合③ - 3 ・ ④

本学学内広報紙「富大速報」第5号～第6号に標記の記事が次のとおり掲載されました。

○富大速報第5号 『再編・統合③-3』

○ 国立大学再編・統合検討委員会部会報告 (前号「富大速報 No.4」からの続きです。)

3. 実施体制

(1) 組織, 全学出勤方式 etc. :

(基本的な考え方)

大学教育の研究機関であり教養(共通)教育に関して提言を行う「大学教育研究センター」(仮称)と、教養(共通)教育の実施組織である「教養(共通)教育実施機構」(仮称)とを設置し、両者が協力して教養(共通)教育を推進していく体制を構築すべきである。教養(共通)教育の実施に関しては全学出勤方式を維持し、その上で、責任ある実施体制を実現するために、新たに学部責任制を導入する。さらに、「教養(共通)教育実施機構」を十分に機能させるために、同「実施機構」の中に専任的教員集団から構成される「教養(共通)教育院」(仮称)を新設する。

「大学教育研究センター」と「教養(共通)教育実施機構」および「教養(共通)教育院」に関しては、以下のような組織とすることが考えられる。

○「大学教育研究センター」(仮称)

I. 設置の目的

めまぐるしく変化しつつある大学教育に関する調査・研究を行い、富山大学の基本理念の実現をめざして、富山大学の教育の現状の問題点や将来のあるべき姿について、科学的な裏付けをもつ適切かつタイムリーな提言を行う。

II. 調査・研究の対象

- ①大学・大学院教育の全般とそこでの教養(共通)教育
- ②高校までの教育と大学教育の連関
- ③FD
- ④自己点検評価, 外部評価, 第三者評価のうち, 教育に関わる部分
- ⑤教員の教育業績評価

III. 「教養(共通)教育実施機構」(仮称)との関係

「センター」のスタッフが「実施機構」の委員会のメンバーとなる。

IV. スタッフの構成と運営方法

- ①センター長に副学長(教育担当)をあてることも考えられる。
- ②専任教員の数は必要最小限とする。(例えば, センター長の他2, 3人)
- ③必要な場合には, 適宜, 他の部局の教員と協力して研究を推進できるような仕組みを工夫する。

(問題点)

- ①生涯学習教育センター, 入試センターとの関係をどうするか。
- ②人数の面でも専門分野の面でも発足時に十分なスタッフを揃えることは困難であろう。よって長期的展望を持ち, 計画的に人事を行っていく必要がある。

○「教養(共通)教育実施機構」(仮称)

I. 設置の目的

全学の教員が参加する教養(共通)教育を実施するための責任組織として設置する。

II. 「実施機構」の組織, 全学出勤方式, 学部責任制, incentive

(組織)

- ①「実施機構」を機動的かつ円滑に機能させるためのheadquartersとして専任的教員集団を構成し, 全教員がいずれかに所属する教員集団(現行の部会)と連携を取りながら, 教養(共通)教育に関する企画・立案, 実施を行う。
- ②専任的教員集団を, 仮に「教養(共通)教育院」と呼ぶ。
- ③実施機構長は学長とし, 「教養(共通)教育院」の責任者は副実施機構長が務める。

(全学出勤方式)

- ④教養(共通)教育において担当可能な授業科目に関して全教員の名簿(以下「名簿」)を作成する。
- ⑤現行の総合科目のような授業に関しては, 原則的に全教員が担当しうるものとする。

(学部責任制)

- ⑥一つの部会を構成する教員集団の大部分が一学部に含まれるような場合, その学部がその部会の担当する授業科目の実施に責任をもつものとする。例えば, 人文系原論→人文学部, 外国語科目→人文学部, 社会系原論→経済学部
- ⑦一つの部会を構成する教員集団が複数学部にも所属する場合, いずれかの学部が責任をもち, 他の学部がそれに協力するものとする。例えば, 自然系原論→理学部(責任学部)+工学部(協力学部)
- ⑧総合科目に関しては, テーマを学部割り振り, 学部が責任をもってコーディネーターを選び, コーディネーターは, 複数学部の教員の協力を得て授業を企画・実施する。また, 「総合科目小委員会」というような組

織を設置してテーマの見直しなどの企画・調整を行う。

(問題点)

- ⑨保健体育科目に関しては、教育学部の帰趨と関係する。
- ⑩情報処理科目、言語表現科目に関しては、カリキュラムの帰趨と関係する。

(incentive)

- ⑪教員が実際に授業を担当した場合には、その負担を少なくとも量的に正確に把握し、それが一定水準以上であれば何らかの報酬を与え、もしも一定水準に達しない場合には何らかのpenaltyを科すことを検討してもよい。これは、教員の教育業績評価の問題でもある。
- ⑫同様のことを、学部を単位として実施することも考えられる。

Ⅲ. 「教養（共通）教育院」の役割と構成・規模

(役割)

- ①「教養（共通）教育実施機構」の中にあって執行部的役割を担う。教養（共通）教育に関する企画・立案、実施（FDや非常勤講師集団との連携なども含む）、自己点検評価を担当し、外部評価、第三者評価などにも対応する。

(構成・規模)

- ②スタッフ（専任的教員集団）の構成は授業科目の構成に対応すべきである。（例えば、人文系原論、社会系原論、自然系原論、〔総合科目〕、英語、英語以外の外国語、保健体育、〔情報処理〕、〔言語表現〕etc.）
- ③「専任的」ということについては、
 - a. 専任
 - b. 併任（「新大学のベーシック・デザイン」では、「一定期間教養教育に重点的に携わる教官」と説明されている）
 - c. 専任と併任の組み合わせ（「ベーシック・デザイン」の大学教育センター）の三つの在り方が考えられる。その人数と併せて検討する必要がある。
- ④英語に関しては、一定数の教員が重点的に担当できる体制（ローテーションによることを排除しない）を構築する必要がある。その場合、教養英語を重点的に担当する教員の所属先を、
 - a. 学部とするか（この場合は併任）
 - b. 「教養（共通）教育院」とするか（この場合は専任）
 - c. センター的な組織とするか（同上）その人数と併せて検討する必要がある。

Ⅳ. 委員会の構成と規模

(問題点)

- ①学長・副学長、学部代表委員、専任的教員、教科教員集団代表、「センター」教員をどのように組み合わせ、どのような委員会群を組織するか、検討する必要がある。
- ②「導入ゼミ」を開設することになれば、その企画・運営を担当する組織（小委員会）を何らか設置する必要がある。

(2) 非常勤講師の任用の在り方:

この点に関しては未検討。なお、「2. 教育課程編成方針」の(4)の2)の⑨、「3. 実施体制」の「教養（共通）教育実施機構」（仮称）のⅢの①に、この問題に関係する指摘がある。

(文責：教養教育部会長 松崎一平)

○富大速報第6号 『再編・統合④』

国立大学再編・統合検討委員会部会報告

○学部部会

- ・ 11月30日（金）第4回
教員養成系大学・学部の動向の情報交換及び学部の再編について協議された。
- ・ 12月25日（火）第5回
高岡キャンパスの教育研究体制等の在り方や学部の再編について協議された。
- ・ 12月26日（水）第2回高岡短期大学との意見交換会（於：富山大学）
富山大学における再編・統合に関する経緯等が報告され、高岡短期大学における再編・統合の方向性及び新大学での高岡キャンパスの在り方等について意見交換が行われた。
- ・ 1月8日（火）第6回
高岡短期大学から示された「新大学における高岡キャンパス」の学部構成、準学士制度等について協議された。
- ・ 1月15日（火）第7回
新大学の学部構想を検討するうえでの基本理念や基本的考え方及び学部部会でのこれまでの共通認識事項が確認され、学部構想について協議された。
- ・ 1月18日（金）第8回
本学のベーシックデザイン案やこれまで示された案を踏まえた学部構想について意見交換が行われ、引き続き、大所高所から学部再編を検討することとなった。
- ・ 1月22日（火）第9回
高岡キャンパスの学部構成や教育学部の今後の在り方等について協議された。
- ・ 1月25日（金）第10回
新大学における学部構想について、これまでの検討内容を踏まえ協議された。
- ・ 1月26日（土）第3回高岡短期大学との意見交換会（於：高岡短期大学）
教員養成系大学・学部の動向及び富山大学（学部部会）における学部編成の基本構想・再編構想案が説明され、この構想案と高岡短期大学案「富山総合大学（案）の創設をめざして」等について意見交換が行われた。
- ・ 1月31日（木）第11回
本部会における学部構想案及び高岡短期大学案「富山総合大学（案）の創設をめざして」等を踏まえ、競争力のある新大学（学部）について協議された。

○大学院部会

- ・ 12月4日（火）第4回
富山医科薬科大学との意見交換を踏まえた新大学院構想における研究科名称、専攻建て、専攻名称等について協議された。
- ・ 12月6日（木）第3回富山医科薬科大学との合同W. G（於：富山医科薬科大学）
富山医科薬科大学（独立研究科等大学院改革検討W. G）と新大学院構想について協議された。
- ・ 12月11日（火）第5回
富山医科薬科大学との意見交換を踏まえた新大学院構想における研究科名称、専攻建て、専攻名称等について協議された。

- ・12月13日（木）第4回富山医科薬科大学との合同W. G（於：富山医科薬科大学）
富山医科薬科大学（独立研究科等大学院改革検討W. G）と新大学院構想における理念、目的、専攻建て等について協議された。
- ・12月18日（火）第5回富山医科薬科大学との合同W. G（於：富山医科薬科大学）
12月13日に引き続き、富山医科薬科大学（独立研究科等大学院改革検討W. G）と新大学院構想における理念、目的、専攻建て等について協議された。
- ・1月18日（金）第6回
文部科学省との新大学院構想の打ち合わせ資料の内容について協議、確認された。
- ・1月29日（火）第7回
文部科学省との打ち合わせの結果報告及び今後の対応について意見交換が行われた。

○教養教育部会

- ・12月4日（火）第5回
教養教育の授業科目構成、教養教育の開講学期、開講するキャンパスについて検討し、併せて実施体制について、教養教育を含む大学教育全般に関して調査・研究、企画・立案を行う「大学教育研究センター（仮称）」と、同センターと連携をとりながら機能する教養教育の実施組織の組み合わせを考えてみるようになった。
- ・12月11日（火）第6回
教養教育の実施に関しては全学出動方式とし（その組織名は「教養（共通）教育実施機構（仮称）」）、企画・立案を行い、かつ実施の指令部的役割を担う何らかの専任的教員集団を配する、という方針となった。
- ・12月14日（金）第7回
第6回に引き続き、「大学教育研究センター（仮称）」、「教養（共通）教育実施機構（仮称）」、専任的教員集団の機能や役割について協議された。
- ・12月18日（火）第8回
教養教育の実施に関しては全学出動方式を維持し、責任ある実施体制実現のため、新たに学部責任制を導入すること、また、「教養（共通）教育実施機構（仮称）」の指令部としての「教養（共通）教育院（仮称）」の設置等について協議された。
- ・1月7日（月）第9回
国立大学再編・統合検討委員会申合せ第3条第3項により、3委員（徳橋、白石、森の各教官）が推薦され、了承された。また、富山医科薬科大学との協議に関する事項、資料等について検討、確認された。
- ・1月11日（金）第1回教養教育に関する合同検討会議（於：富山大学）
富山大学及び富山医科薬科大学から、教養教育の現状、カリキュラムと実施体制・実施組織等についてそれぞれ説明があり、これらの意見交換が行われた。
- ・1月17日（木）第2回教養教育に関する合同検討会議（於：富山医科薬科大学）
富山医科薬科大学から「教養教育の理念・目的」について、また、富山大学から「教養教育のデザイナー－中間報告－」についてそれぞれ説明があり、基礎科目等について意見交換が行われた。
なお、今回から、高岡短期大学がオブザーバーとして本合同検討会議に出席した。
- ・1月25日（金）第3回教養教育に関する合同検討会議（於：富山大学）
富山大学から「教養教育のデザイナー－中間報告－」の3. 実施組織について、また、高岡短期大学から「教養教育の枠組みについてのモデルの提案」についてそれぞれ説明があり、意見交換が行われた。

以 上

平成14年度入学者選抜個別学力検査（一般選抜（前期日程）及び専門高校・総合学科卒業生選抜）を実施

－昨年より199人多い2,863人が受験－

平成14年度入学者選抜個別学力検査（一般選抜（前期日程）及び専門高校・総合学科卒業生選抜）が、2月25日（月）に各学部検査場において実施されました。

当日は、好天に恵まれ、交通機関に影響はなく、本学では検査開始約2時間前から受験者の姿が見え始め、受付開始の午前9時には各検査場は受験者でいっぱいとなりました。

検査は、一般選抜（前期日程）及び専門高校・総合学科卒業生選抜の志願者3,027人（個別学力検査を課さない経済学部夜間主コースを除く）のうち2,863人が受験（受験率94.6%）しました。また、私費外国人留学生特別選抜も併せて実施され、73人が受験しました。

なお、前期日程、後期日程及び私費外国人留学生特別選抜の志願者は次表のとおりです。



△経済学部検査場に入場する受験者

平成14年度富山大学入学志願状況表【確定】

学部	学科・課程等	平成14年度				平成13年度				備考				
		前期日程		後期日程		前期日程		後期日程						
		募集人員 (人)	志願者数 (人)	倍率 (倍)	募集人員 (人)	志願者数 (人)	倍率 (倍)	募集人員 (人)	志願者数 (人)		倍率 (倍)			
人文学部	文学	36	221	6.1	13	133	10.2	49	354	7.2	49	276	5.6	
	国際文化学	30	182	6.1	11	103	9.4	41	285	7.0	41	229	5.6	
	言語文化学	45	276	6.1	17	242	14.2	62	518	8.4	62	305	4.9	
	計	111	679	6.1	41	478	11.7	152	1,157	7.6	152	810	5.3	
教育学部	学校教育系	14	34	2.4	9	70	7.8	23	104	4.5	23	130	5.7	
	障害児教育系	5	24	4.8	2	32	16.0	7	56	8.0	7	46	6.6	
	言語・社会系	17	60	3.5	8	130	16.3	25	190	7.6	25	159	6.4	
	自然・生活系	19	59	3.1	6	79	13.2	25	138	5.5	25	74	3.0	
	芸術・体育系	7	42	6.0	5	105	21.0	12	147	12.3	12	95	7.9	
	発達臨床専攻	4	8	2.0	3	11	3.7	7	19	2.7	8	35	4.4	
	生涯スポーツ専攻	4	24	6.0	3	187	62.3	7	211	30.1	7	58	8.3	
	人間環境専攻	14	21	1.5	6	39	6.5	20	60	3.0	20	84	4.2	
	情報教育課程	8	17	2.1	4	15	3.8	12	32	2.7	12	65	5.4	
	マルチメディア芸術専攻	4	13	3.3	2	12	6.0	6	25	4.2	6	39	6.5	
	計	96	302	3.1	48	680	14.2	144	982	6.8	145	785	5.4	
経済学部	経済学	80	268	3.4	31	304	9.8	111	572	5.2	111	393	3.5	
	経営学	71	265	3.7	24	168	7.0	95	433	4.6	95	363	3.8	
	経営学	59	223	3.8	20	381	19.1	79	604	7.6	79	477	6.0	
	小計	210	756	3.6	75	853	11.4	285	1,609	5.6	285	1,233	4.3	
	経済学	3	28	9.3	7	144	20.6	10	172	17.2	10	139	13.9	
	経営学	3	24	8.0	7	62	8.9	10	86	8.6	10	109	10.9	
	経営学	3	20	6.7	7	83	11.9	10	103	10.3	10	106	10.6	
	小計	9	72	8.0	21	289	13.8	30	361	12.0	30	354	11.8	
		計	219	828	3.8	96	1,142	11.9	315	1,970	6.3	315	1,587	5.0
	理学部	数学	28	133	4.8	6	25	4.2	34	158	4.6	34	133	3.9
物理学		26	67	2.6	6	50	8.3	32	117	3.7	32	99	3.1	
化学		22	67	3.0	7	37	5.3	29	104	3.6	29	112	3.9	
生物		23	101	4.4	5	37	7.4	28	138	4.9	28	125	4.5	
地球科学		29	67	2.3	9	70	7.8	38	137	3.6	38	150	3.9	
生物圏環境科学		19	45	2.4	5	41	8.2	24	86	3.6	24	208	8.7	
小計		147	480	3.3	38	260	6.8	185	740	4.0	185	827	4.5	
電気システム工学		52	154	3.0	18	95	5.3	70	249	3.6	70	206	2.9	
情報工学		45	112	2.5	16	80	5.0	61	192	3.1	61	248	4.1	
機械システム工学		52	134	2.6	17	87	5.1	69	221	3.2	69	382	5.5	
物質システム工学	93	379	4.1	28	126	4.5	121	505	4.2	121	515	4.3		
	小計	242	779	3.2	79	388	4.9	321	1,167	3.6	321	1,351	4.2	
工学部	電気システム工学	2	8	4.0				2	8	4.0	2	6	3.0	
	知能情報工学	2	10	5.0				2	10	5.0	2	15	7.5	
	機械システム工学	2	7	3.5				2	7	3.5	2	5	2.5	
	物質システム工学	2	6	3.0				2	6	3.0	2	3	1.5	
	小計	8	31	3.9				8	31	3.9	8	29	3.6	
	専門高	250	810	3.2	79	388	4.9	329	1,198	3.6	329	1,380	4.2	
	校・総合学科	823	3,099	3.8	302	2,948	9.8	1,125	6,047	5.4	1,126	5,389	4.8	
	卒業生													
	選抜													
		計	823	3,099	3.8	302	2,948	9.8	1,125	6,047	5.4	1,126	5,389	4.8

平成14年度富山大学入学者選抜試験私費外国人留学生選抜出願状況表

学 部	学 科 ・ 課 程		平成14年度		平成13年度	
			募集人員	志願者数	募集人員	志願者数
人文学部	人 文 学 科		若干名	7	若干名	8
	国 際 文 化 学 科		若干名	3	若干名	7
	言 語 文 化 学 科		若干名	6	若干名	5
	計		若干名	16	若干名	20
教育学部	学 校 教 育 教 員 養 成 課 程		若干名	0	若干名	2
	生 涯 教 育 課 程		若干名	2	若干名	1
	情 報 教 育 課 程		若干名	2	若干名	2
	計		若干名	4	若干名	5
経済学部	昼間主 コース	経 済 学 科	若干名	7	若干名	15
		経 営 学 科	若干名	21	若干名	29
		経 営 法 学 科	若干名	3	若干名	5
	計		若干名	31	若干名	49
理学部	数 学 学 科		若干名	1	若干名	0
	物 理 学 科		若干名	2	若干名	0
	化 学 学 科		若干名	1	若干名	1
	生 物 学 科		若干名	2	若干名	0
	地 球 科 学 科		若干名	0	若干名	1
	生 物 圏 環 境 科 学 科		若干名	2	若干名	0
	計		若干名	8	若干名	2
工学部	電 気 電 子 シ ス テ ム 工 学 科		若干名	12	若干名	6
	知 能 情 報 工 学 科		若干名	12	若干名	13
	機 械 知 能 シ ス テ ム 工 学 科		若干名	9	若干名	5
	物 質 生 命 シ ス テ ム 工 学 科		若干名	3	若干名	1
	計		若干名	36	若干名	25
合 計			若干名	95	若干名	101

【参考：国籍別志願者数】

年 度	中 国	韓 国	マレーシア	ネパール	スリランカ	合 計
14	91	4				95
13	89	5	5	1	1	101

平成14年度在外研究員派遣者の決定

種 類	所 属	職 名	氏 名	主たる滞在地及び当該滞在地の属する国名並びに派遣先の機関名	調 査 研 究 題 目	派 遣 期 間
長期(甲種)	教育学部	助教授	山根 拓	コペンハーゲン (デンマーク) コペンハーゲン大学	20世紀デンマークにおける地域システムの形成	15. 3. 1) 15. 12. 31
				ローマ (イタリア) ローマ聖心大学	生命科学技術の規制に関する研究	14. 4. 1) 14. 5. 31
短 期	経済学部	助教授	秋葉 悦子	ローマ (イタリア) ローマ聖心大学	生命科学技術の規制に関する研究	14. 4. 1) 14. 5. 31
	経済学部	助教授	内田 康郎	デンバー (アメリカ合衆国) コロラド州立大学	Eコマース進展後の競争戦略の革新性に関する研究	14. 7. 1) 14. 8. 31
	工学部	助教授	長谷 博行	モントリオール (カナダ) コンコルディア大学	カラー文書画像解析と認識に関する研究	14. 7. 22) 14. 9. 19

平成14年度国際研究集会派遣研究員(第1期)の決定

所 属	職 名	氏 名	派 遣 集 会 名	開 催 国	講 演・発 表 の 題 名	開 催 期 間
教育学部	助教授	宮部 寛志	第15回分取/プロセスクロマトグラフィー国際シンポジウム	アメリカ合衆国	逆相液体クロマトグラフィー系における表面拡散の特徴と機構	14. 6. 16) 14. 6. 19
						工学部
理学部	教授	川崎 一郎	セディ(地球深部の研究)2002	アメリカ合衆国	非地震性励起の地球振動を用いたD'層サイレント地震の検出の試み	14. 7. 21) 14. 7. 26

平成14年度公開講座実施一覧

・平成14年度の公開講座が次のとおり実施されることになりました。

	講 座 名	開設期間	総時間数	募集人員	受講料 (円)	実 施 場 所
1	近代フランス音楽におけるピアノ作品	5.10～6.28	12	20	6,800	教育学部音楽科第1講義室
2	陶芸	5.11～6.15	12	20	6,800	教育学部窯芸室
3	フランス語初級Ⅰ	5.11～7.13	20	20	7,800	生涯学習教育研究センター2階第4研修室
4	入門中国語	5.11～7.6	12	20	6,800	生涯学習教育研究センター2階第4研修室
5	遊べ遊べ大人たち・先生たち	5.12～7.7	10	45	5,800	生涯学習教育研究センター2階大講義室
6	初級英会話	5.14～7.16	15	20	6,800	生涯学習教育研究センター2階第4研修室
7	入門ドイツ語	5.18～7.13	16	20	7,800	生涯学習教育研究センター2階第2研修室
8	山歩きの楽しみ(その1)	5.18～5.19	9	15	5,800	生涯学習教育研究センター会議室・大辻山
9	日常の音と映像を読み解く	5.22～6.26	9	30	5,800	生涯学習教育研究センター会議室・教育学部音楽棟第1教室
10	シニアサッカー教室	5.26～7.7	20	25	7,800	富山大学第一運動場・空港スポーツ緑地陸上競技場
11	日本の言語文化からみた越中	6.1～6.29	7.5	30	5,800	生涯学習教育研究センター1階会議室
12	政治・経済の変動と法	6.6～7.4	7.5	30	5,800	生涯学習教育研究センター1階会議室
13	IT講座(Ⅰ)	6.8～6.9	12	30	6,800	総合情報処理センター4F
14	IT講座(Ⅱ)	6.22～6.23	12	30	6,800	総合情報処理センター4F
15	動きをとおして「からだ気づき」・「体ほぐし」	6.22～7.27	7.5	20	5,800	職員会館
16	IT講座(Ⅲ)	7.6～7.7	12	30	6,800	総合情報処理センター4F
17	IT講座(Ⅳ)	7.20～7.21	12	30	6,800	総合情報処理センター4F
18	ゴルフ(初級者)コース	8.1～8.9	15	20	6,800	呉羽カントリークラブ
19	IT講座(Ⅴ)	8.3～8.4	12	30	6,800	総合情報処理センター4F
20	教師のための情報教育実践力養成講座	8.12～8.20	15	20	6,800	教育学部附属教育実践総合センター・教育学部端末室
21	ジョギング・ランニングコース	8.19～9.13	20	15	7,800	総合体育センター・空港スポーツ緑地公園・周辺道路
22	環境と人間活動	8.24～8.25	6	40	5,800	東砺波郡利賀
23	パソコン教室 Windows 入門	9.1～10.20	15	20	6,800	総合情報処理センター4F
24	高齢者のための情報機器を考える	9.3～10.1	12.5	40	6,800	総合情報処理センター4F
25	とことん子供を知ろう	9.5～9.26	10.5	20	6,800	生涯学習教育研究センター1階会議室
26	思春期の問題を考える	9.13～10.18	9	20	5,800	生涯学習教育研究センター1階会議室
27	睡眠の科学	9.21～10.26	9	20	5,800	生涯学習教育研究センター1階会議室
28	山歩きの楽しみ(その2)	9.28～9.29	9	15	5,800	生涯学習教育研究センター会議室・御前山
29	フランス語初級Ⅱ	10.12～12.21	20	20	7,800	生涯学習教育研究センター2階第4研修室
30	シニアから始める IT 講座(Ⅰ)	10.19～10.20	12	20	6,800	総合情報処理センター4F
31	初級中国語	10.19～12.14	12	20	6,800	生涯学習教育研究センター2階第4研修室
32	食文化から見たヨーロッパ中世	10.31～11.28	10.5	20	6,800	教育学部講義室・サンフォルテ調理実習室
33	数理と情報の世界	11.1～11.29	15	25	6,800	総合情報処理センター4F
34	究極の干し柿を作ろう	11.8～11.9	7	20	5,800	西砺波郡福光町
35	究極のおかきを作ろう	11.9～11.10	7	20	5,800	西砺波郡福光町
36	シニアから始める IT 講座(Ⅱ)	11.9～11.10	12	20	6,800	総合情報処理センター4F
37	シニアから始める IT 講座(Ⅲ)	11.30～12.1	12	20	6,800	総合情報処理センター4F
38	親子スキー教室	2.1～2.2	15	20	6,800	牛岳スキー場
	合 計		461	900		

人 事 異 動

異動区分	発令年月日	氏名	異動前の所属官職	異 動 内 容
昇 任	14. 2. 1	安達 勇作	助教授 教育学部 (学校教育)	教 授 教育学部 (学校教育)
	"	真島 一彦	大阪大学助教授大学院工学研究科	" 工学部 (物質生命システム工学科材料工学)
転 任	14. 2. 1	川崎 一郎	教 授 理学部 (地球科学科地球ダイナミクス)	京都大学教授防災研究所附属地震予知研究センター
臨時的任用	14. 2. 25	菅原 香		教 諭 (教育学部附属養護学校) (~14. 3. 20)
退 職	14. 2. 25	山田 智子	教 諭 (教育学部附属養護学校)	平成14年2月24日限り任期満了により退職
	"	菅原 香	" "	"
育児休業	14. 2. 25	高島 佳江	教 諭 (教育学部附属養護学校)	育児休業 (~14. 3. 20)
	"	脊戸みちる	" "	職務復帰
併 任	14. 2. 20	山地 啓司	教 授 教育学部	附属図書館長・評議員 (~16. 2. 19)
	"	山西 潤一	" "	評議員 (~14. 3. 31)
併任解除	14. 2. 20	山地 啓司	評議員	併任解除

学 内 諸 報

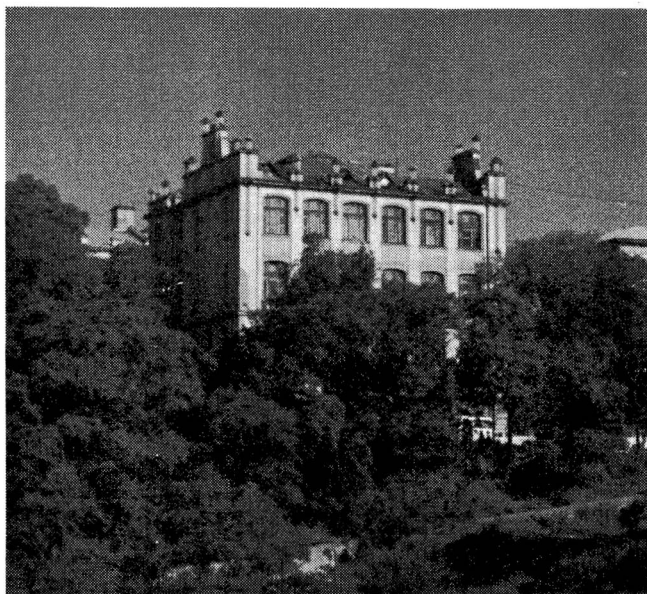
ロシア連邦極東国立総合大学と学術交流協定を締結

平成13年12月10日付けで、本学とロシア連邦極東国立総合大学との間で大学間学術交流協定が締結されました。

極東国立総合大学は、ロシア文部省管轄下であり、1899年に創立され、100年を越える歴史を有し、人文科学、社会科学、自然科学の諸分野を擁するロシア極東地域唯一の総合大学です。また、約1,200人の教職員、約20,000人の学生を擁するロシア極東最大の高等教育機関でもあります。

これまで本学では、経済学部が同大学附属東洋大学と部局間交流協定を締結し交流を図ってきましたが、今回の大学間協定締結により、人文系、社会系だけでなく、理工系も含めた幅広い分野での研究者・学生の活発な交流が進められることとなります。

さらに、今回、新たにロシア極東地域の大学との大学間協定が締結されたことにより、本学が推進する環日本海地域との交流が一層推進されるものと期待されます。



△ロシア連邦極東国立総合大学

教育学部附属幼稚園及び同附属養護学校において立春の節分の行事を実施

教育学部附属幼稚園及び同附属養護学校において、立春の節分の行事として、豆まきがそれぞれ2月1日（金）と2日（土）に行われました。

2月1日（金）に附属幼稚園で行われた節分では、園庭に集まっている園児の所に心の鬼に扮した教官が登場すると、初めは怖がっていた園児達も、「いじわる鬼をやっつけろ！さむがり鬼出ていけ！」のかけ声と共に、鬼にめがけて豆をまきました。その後、一目散に退散した鬼に代わって別の教官が扮した福の神が登場し、「悪い鬼を追い出した人はとてもいい顔になっていますね。」

と述べると、豆を与えられた園児達はとても幸せそうでした。

また、附属養護学校小学部では、季節の変わり目に邪気を払い、福を呼び込むという節分の趣旨から、自分自身を振り返る日として毎年豆まき集会を行っており、今年も2月2日（土）に「いたずら鬼」や「いやいや鬼」など日頃の反省すべき行いを鬼に例え、「鬼は外、福は内。心の中の悪い鬼よ飛んで行け！」と生徒達は教官が扮した鬼に豆をまきました。今年も生徒達は悪い鬼に豆をぶつけ、心の中の悪い鬼を追い出したようです。

ロシア・ウラジオストック市のテレビ番組取材班が 人文学部を訪問

ロシア・ウラジオストック市のテレビ番組取材班が映画「日本の中のロシアを求めて」の制作のため、2月4日（月）に本学人文学部ロシア言語文化コースのロシア語による卒業研究発表会の模様を取材しました。

卒業研究発表会では、卒業論文を執筆し終えた学生5名が自らの論文の要旨をロシア語で報告し、それについて指導教官等からロシア語で質疑応答が行われました。また、番組取材班からもロシア語で「なぜロシア語を勉強しているのか」「ロシアで今、村上春樹の訳本がブー

ムになっているが、なぜだと思うか」「ロシアと日本の類似点と相違点は何だと思うか」等を質問するとともに、学生の語学力のレベルの高さを賞賛し、卒業研究発表会は大変盛会のうちに終了しました。

同取材班は2月17日まで日本に滞在して富山の他東京等で撮影を行い、帰国後3月末日までに30分のテレビ番組を完成させ、ウラジオストック市のアルセニエフ博物館及び日本センターで試上映される他、O T V - プリム（沿海公共テレビ）局で放映される予定です。

第2回極東地域研究センター特別セミナーを開催

本学極東地域研究センターでは、「北東アジア地域の発展と安定化の諸条件に関する研究」をテーマに掲げ研究を行っていますが、このほど2月8日（金）に黒田講堂において開催された「第2回極東地域研究センター特別セミナー」において、その研究成果が報告され、日本・中国及びロシアの研究者約20人が参加しました。

午前の部に開催された社会開発研究班部会では、「ロシア地域労働市場への視覚」をテーマとしてロシア科学アカデミー極東支部歴史・考古学・民俗学研究所社会歴史政治研究センターのアンゲリーナ・ヴァシユク所長の講演や日本の研究者の報告・討論が行われました。このうち、アンゲリーナ・ヴァシユク所長は「極東地域における露中間の人口移動関係」について報告を行い、中国からロシアへの移民が多かったのはロシア語教育が盛んであったことなどの文化的背景があったこと、及び中国人の主な滞在目的は資産増加であったことを指摘されました。

また、午後の部に開催された経済開発研究班部会では、「北東アジアにおける穀物需給構造」をテーマとして中国・吉林農業大学の郭慶海副学長等が報告を行いました。



△講演するアンゲリーナ・ヴァシユク所長

平成13年度第2回機器分析センター研究会を開催

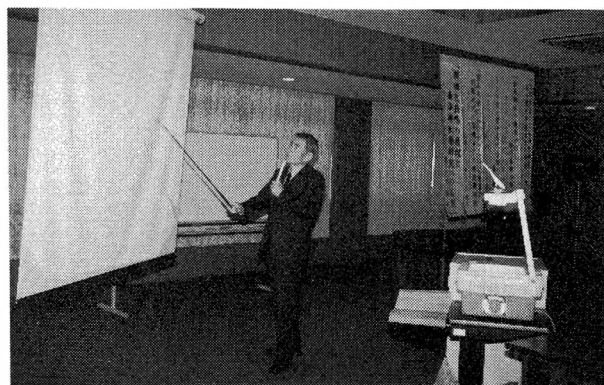
2月8日（金）に工学部大会議室において機器分析センター主催の平成13年度第2回研究会が開催され、約70

人が参加しました。

当センター分子構造解析部門には、「400メガ・

ヘルツ超伝導核磁気共鳴（NMR）装置」が設置され、分子構造の決定に威力を発揮していますが、本研究会では、その利用状況と最先端の研究成果及びNMR装置の高性能広帯域の開発を披露し討論するために開催されたものです。

研究会では、森 克徳同センター長の挨拶に引き続き、朝山邦輔 大阪大学名誉教授の「核磁気共鳴の原理と高温超伝導研究への応用」と題した講演や研究発表討論会等が開催され、活発な意見交換が行われました。



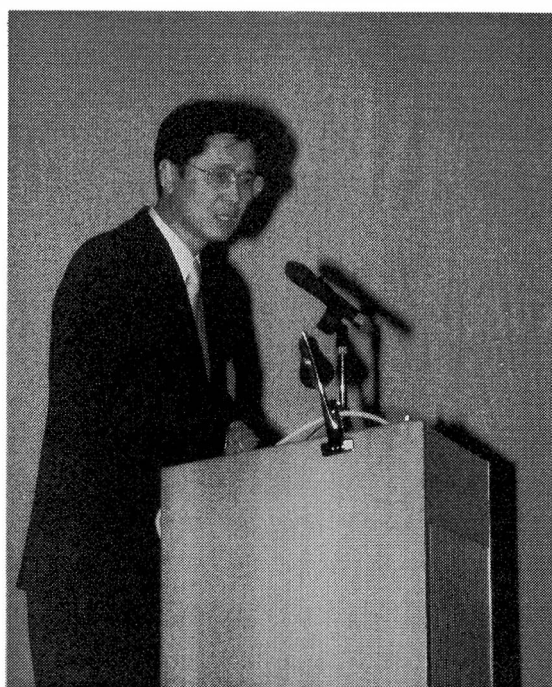
△講演する朝山邦輔 大阪大学名誉教授

平成13年度教育学部附属養護学校教育実践研究会を開催

2月15日（金）に教育学部附属養護学校において、平成13年度教育実践研究会が開催されました。

「一人一人の教育的ニーズに応じた支援はどうあるべきか ～個別の指導計画・支援ツール・児童生徒を取り巻く環境～」を主題とした今年度の研究会には、県内外から大学の教官及び知的障害児施設の関係者等約300人が参加し、小学部、中部及び高等部の公開授業やパソコンを使った児童・生徒の情報管理システム等のポスター等による研究紹介が行われました。同校は本年度児童・生徒の情報をパソコンやLAN（構内情報通信網）で一元的に管理するシステムを構築し、個別の指導計画の文書のほか、授業の様子を写したデジカメの写真等を集約して教師間での情報交換に役立てたり、保護者との懇談にも利用しています。

また、「知的障害養護学校における個別の指導計画」と題した上越教育大学の藤原義博教授の特別講演も開催され、多数の参加者が熱心に聴講していました。

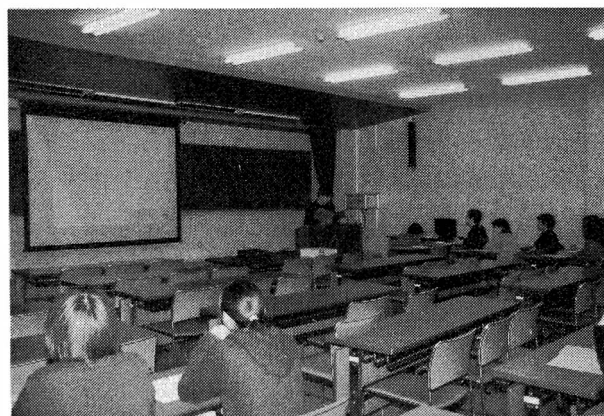


△講演する上越教育大学の藤原義博教授

留学生センター日本語研修コース第5期スピーチ発表会を開催

2月18日（月）に留学生センター日本語研修コース第5期のスピーチ発表会が開催されました。この発表会は、日本語研修コースで半年にわたって、日本語や日本語環境でのコンピュータの使い方などを学んだ留学生が、その成果を披露する場として、每期開催されているものです。

発表会では、今年の4月から本学工学部に進学する日韓大学理工系学部留学生4人が、4つの異なる視点からみた母国について、また、同じく4月から本学大学院で研究を行う留学生5人が、各自の専門分野について、コ



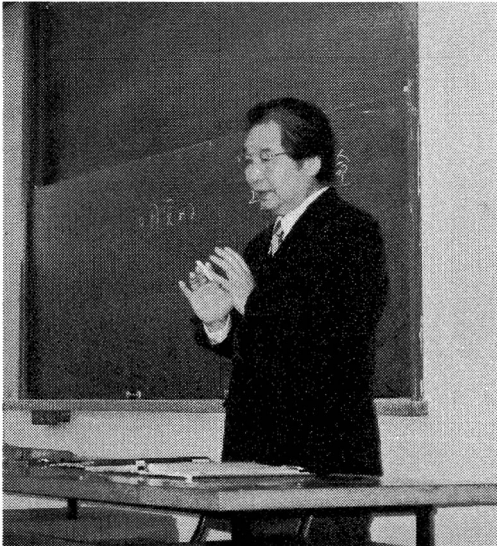
ンピュータを使いながら日本語で紹介しました。

当日は学内外から、指導教官、日本人学生、ホストファミリー、日本語研修コースの修了生及び本学職員等約40

人が出席し、「自国のことや自分の専門について真剣に考えている姿に感動した」などと感想を述べていました。

退官記念最終講義の実施

本年3月末をもって退官される教授の最終講義が、教育学部、理学部及び工学部で行われ、多数の学生、教職員、OBが出席し、終始熱心に聴講していました。



△教育学部 宗 孝文 教授

日 時 1月28日(月) 15:00～

場 所 教育学部第5教室

題 目 教育哲学



△工学部 井上 正美 教授

日 時 2月4日(月) 16:00～

場 所 工学部209番講義室

題 目 触媒に学んで



△理学部 山本 浩司 教授

日 時 2月8日(金) 16:00～

場 所 人文・社会共通教育棟1番教室

題 目 分子美学に魅せられて



△理学部 櫻井 醇児 教授

日 時 2月21日(木) 15:00～

場 所 人文学部6番教室

題 目 私の研究と研究生活をふり返って

平成13年度全国公務員レクリエーション共同行事富山地区ボウリング大会で本学が団体戦で優勝・準優勝及び個人戦で準優勝

平成13年度全国公務員レクリエーション共同行事富山地区ボウリング大会が2月21日（木）に富山ゴールデンボウルで開催され、富山県内の19機関26チーム76人が参加しました。

大会は、団体戦と個人戦を同時に行う形式で、1組3人がそれぞれ2ゲームを行い、その得点が団体戦及び個人戦（男子、女子）に反映されるルールによって行われました。

試合は、例年と同様に、各機関のボウリング愛好者が参加して高水準の競技がくり広げられ、熱戦の結果、団体戦において本学から参加した4組のうち2組が1・2位を独占する好成績を収めました。

また、個人戦においても、藤井栄吉・工学部専門職員が準優勝を飾りました。

なお、成績は次のとおりです。（本学関係分）

【団体戦】

優 勝 富山大学Dチーム（生田孝行、高村浩之、村道俊一）

準優勝 富山大学Cチーム（岩城廣光、長崎宏美、林 秀一）

【個人戦】

準優勝 藤井栄吉



△個人戦準優勝の賞状授与

海 外 渡 航 者

渡航の種類	所 属	職	氏 名	渡 航 先	目 的	期 間
外国出張	人文学部	助教授	竹内 潔	ガボン、ポルトガル	モイラ周辺地域における民族的アイデンティティの再編成に関する人類学的調査	14. 2. 16 } 14. 3. 13
	人文学部	講 師	阿部 美規	ド イ ツ	資料収集	14. 2. 16 } 14. 3. 11
	極東地域研究センター	助教授	堀江 典生	ロ シ ア	環日本海学術ネットワーク形成のための調査及び研究打ち合わせ	14. 2. 23 } 14. 3. 2
	経済学部	助教授	岸本 壽生	マ レ ー シ ア	アジアIT革命とサービス・マルチナショナリズム	14. 2. 26 } 14. 3. 4
海外研修	経済学部	教 授	萩野 聡	ド イ ツ	ドイツ行政理論行為の研究	14. 2. 1 } 14. 3. 30
	理学部	助教授	藤 浩明	中 国	暫定サイトサーベイパネルに出席、視察	14. 2. 23 } 14. 3. 1
	経済学部	助教授	柳井 雅也	中 国	青島市の経済地域の聞き取り及び世界的企業の成長の原因究明のための聞き取り	14. 2. 27 } 14. 3. 5

主 要 行 事

本 部

- 2月5日 事務局連絡会
運営会議
- 6日 富山大学開放推進懇話会
- 7日 富山大学運営諮問会議
学生生活委員会
富山大学の教育業績評価の確立に関する検討委員会
- 8日 自己点検評価委員会
組織運営体制の整備に関する検討委員会
- 12日 事務協議会
富山大学の教育業績評価の確立に関する検討委員会
運営会議
- 12日～15日 学内会計監査
- 15日 ヒトゲノム・遺伝子解析研究倫理審査委員会（持ち回り）
- 14日 就職委員会
施設整備委員会
富山大学の教育業績評価の確立に関する検討委員会
- 15日 部局長会議
評議会
- 18日 事務局連絡会
北陸地区及び信越地区国立大学長懇談会（於：金沢大学）
- 19日 大学懇談会
- 21日 低温液化室自己点検評価委員会
- 22日 教養教育運営協議会
国際交流委員会
組織運営体制の整備に関する検討委員会
高岡短期大学と学部部会との意見交換会
教養教育合同検討会議（於：富山医科薬科大学）
- 25日 平成14年度入学者選抜個別学力検査（前期日程）

26日～

- 3月2日 教養教育スキー実習

28日～

- 3月1日 臨時東海北陸地区国立大学事務局長会議
（於：オークラアクトシティホテル浜松）
厚生補導研究会（於：ハートピアつるぎ）

人 文 学 部

- 2月5日 学部特別昇給委員会
- 6日 人文科学研究科委員会
教授会（人事）
教授会
- 8日 学部教務委員会
教授会（人事）
教授会
- 13日 緊急対策委員会
- 19日 学部予算委員会
- 20日 学部国際交流委員会
教授会（人事）
教授会
- 25日 平成14年度入学者選抜学力検査（前期日程）
講座代表者会議

教 育 学 部

- 2月3日 平成14年度附属中学校入学者第1次選考（学力検査）
- 4日 教育学部及び附属学校園共同研究プロジェクト運営委員会
- 6日 授業終了
学部拡大将来計画委員会
- 7日 学部教務委員会
平成14年度附属中学校入学者第2次選考（抽選）
- 8日 学部入学試験委員会
- 13日 平成14年度大学院教育学研究科入学者選抜試験（第2次募集）
研究科委員会
教授会
人事教授会
- 15日 学部拡大将来計画委員会

- 附属養護学校教育実践研究会
 19日 学部予算委員会
 20日 研究科委員会小委員会
 研究科委員会
 附属幼稚園避難訓練
 22日 教育学研究科合格発表（第2次募集）
 「子どもとのふれあい体験」体験交流発表会
 平成13年度第2回附属小学校評議員会
 25日 平成14年度入学者選抜学力検査（前期日程）
 27日 学部学生生活委員会

- 学部広報委員会
 学部教務委員会（持ち回り）
 13日 大学院理工学研究科博士前期課程理学部会
 教授会
 人事教授会
 大学院理工学研究科博士後期課程部会
 14日 大学院理工学研究科博士前期課程合格発表
 （第2次募集）
 理学部将来計画策定ワーキンググループ会
 議
 25日 平成14年度入学者選抜学力検査（前期日程）

経 済 学 部

- 2月1日 就職指導委員会（持ち回り）
 6日 FDプロジェクトと教務委員会の合同委員
 会
 財務委員会
 8日 研究科委員会小委員会
 学部総務委員会
 12日 学部学生生活委員会
 学部教務委員会
 13日 人事教授会
 研究科委員会
 教授会
 14日 学内会計監査
 18日 学部教務委員会
 21日 将来構想等検討委員会
 22日 就職指導委員会（持ち回り）
 25日 平成14年度入学者選抜学力検査（前期日程）
 27日 学部国際交流委員会
 将来構想等検討委員会
 研究科委員会小委員会

工 学 部

- 2月4日 学部運営委員会
 学部将来計画委員会
 学生生活委員会
 5日 大学院2次入学試験
 7日 工学部自己点検評価委員会
 工学部国際交流委員会
 12日 教務委員会
 工学部入学試験検討委員会
 13日 教授会
 専任教授会
 理工学研究科博士前期課程工学部会
 理工学研究科博士後期課程部会
 14日 大学院2次入学試験合格発表
 工学部自己点検評価委員会
 15日 学生生活委員会
 25日 平成14年度入学者選抜学力検査（前期日程）
 28日 学部運営委員会
 学部将来計画委員会

理 学 部

- 2月4日 学科長・施設委員合同会議
 学科長会議
 理学部将来計画策定ワーキンググループ会
 議
 5日～6日 大学院理工学研究科博士前期課程入学試験
 （第2次募集）
 6日 授業終了
 7日 学部入試委員会
 8日 古紙回収

地域共同研究センター

- 2月5日
 ～7日 先端技術研修（情報処理コース）
 8日 特別講義
 演題：特許の構成要素と明細書の書き方
 講師：長谷川 芳樹（地域共同研究セン
 ター客員教授，創英国際特許法事
 務所所長）
 12日 特別講演会
 演題：今，日本のもの造りに求められる

もの

講師：北野 芳則（地域共同研究センター
客員教授，YKK（株）執行役員
副社長）

14日 大学院生教育講座

演題：超小型薄肉押し成形技術の開発
講師：磯貝 光之（地域共同研究センター
客員教授，アイシン軽金属（株）
代表取締役副社長）

21日 大学院生教育講座

演題：分散型電源について
講師：片岡 直昭（地域共同研究センター
客員教授，北陸電力（株）取締役
技術開発研究所長）

総合情報処理センター

2月5日 運営委員会
センター長候補者推薦委員会

水素同位体科学研究センター

2月4日 専門委員会
19日 人事に関する運営委員会

機器分析センター

2月8日 研究会

極東地域研究センター

2月12日 第2回特別セミナー

①講師：アンゲリーナ・ヴァシュク（ロシア科学アカデミー極東支部歴史・考古学・民俗学研究所社会歴史政治研究センター所長）

演題：「極東地域における露中間の人口移動関係（20世紀末～21世紀初）」

②講師：堀江 典生（極東地域研究センター助教）

演題：「ノヴォシビルスク州に見る産業再編と労働市場の変化」

③講師：郭 慶海（吉林農業大学副学長・教授）

演題：「中国吉林省玉米市場分析」

④講師：早川 治（日本大学生物資源科学部助教）

演題：「東アジアの穀物需給動向分析」

⑤講師：酒井 富夫（極東地域研究センター教授）

演題：「日本における飼料穀物輸入政策と今後の課題」



△ 教育学部附属養護学校における節分の様子《鬼は外、福は内。心の中の悪い鬼よ飛んでけ！》



△ 教育学部附属幼稚園における節分の様子《いじわるの鬼をやっつける！さむがり鬼、出ていけ！》

編 集 富山大学総務部企画室 〒930-8555富山市五福3190 TEL. (076) 445-6029 FAX. (076) 445-6033
印刷所 あげぼの企画(株) 〒930-0031富山市住吉町1-5-8 TEL. (076) 424-1755 FAX. (076) 423-8899